

# 青嶺

## Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

令和7年も残り

あと少し！

前回の通信から二か月以上が過ぎました。この間には文化学習発表会、働く人プロジェクト、研究発表会と大きな行事が目白押しで「学園の秋」らしい期間でした。

先日は生徒会長選挙が行われ各候補者・応援演説者ともに素晴らしい演説で本人たちの熱い思いを感じました。生徒会会員である皆さんも真剣に耳を傾け、積極的に質疑を行いました。選挙管理委員会の運営も素晴らしい最後まで滞りなく取り組みました。

新生徒会長に選ばれた、田中和花さんを初め二年生の新しい生徒会メンバーが三年生からバトンを引き継ぎ、伝統ある青嶺中学校を引っ張ってくれると心から期待しています。自分たちの生活をより良くするためにどうするべきか、共に考えていきましょう。

### 「情報」に向き合う

先日の研究発表会で、元アナウンサーの下村健一先生が来校され、これまでリモートで授業をしていた三年生と初めて実際に会い、対面で授業をして下さいました。

情報に惑わされないための心構えや「逆検索」という手立てを教えてくださいました。どのような道筋を辿り、何を確認すれば事実なのか、まったくのたらいまわしなのか、或いは事実の可能性があるのかを判断できるということでした。

黒川小学校での講演会では、「まだわからないよね」と踏みとどまることで暴走を防ぐことも話され、対話することが相手や自分を理解しようとし、互いを大切にする元となると語られました。

数年前に新型コロナウイルスが大流行した時、社会全体が疑心暗鬼となり、恐怖にかられた人々は根拠のない噂やデマに流され、非常に攻撃的で排他的になりました。自分の都合の良い情報を選び、全く疑うことなく信じたように信じ、更新する

ことなく他者を攻撃する時期でした。人間の心はこんなに弱いものなのか、これまで何を学んできたのかと悲しくなるとともに、情報との向き合い方を改めて考え「自分ならどうするか」を繰り返し考えました。テレビマンとしてメディアに深く関わっていた下村先生はいち早く情報リテラシーの重要性に気づき、情報との向き合い方を長年各方面で伝える活動をされています。

情報リテラシーと対話は両方とも想像力を働かせ、考えを固定せず、決めつけない姿勢をもつことが重要です。価値や考え方が違う人や事柄を粘り強く分かつとすることに行きます。情報に向き合うには次の四つのスイッチを活用します。

- ① 「まだわからないよね」
- ② 「事実かな？印象かな？」
- ③ 「別の見方はないかな？」
- ④ 「何が隠れているかな？」

そこからまた最初の「まだわからないよね」に戻るのです。

この四つのスイッチで正しい「情報のキャッチボール」ができる社会を実現し、「大きな景色を眺める楽しさ」を味わってほしいという願いを、下村先生は子ども達へのメッセージとして色紙にしたためて下さいました。子どもも大人も正しく情報に向き合い、そして冷静に判断

し、真偽不明な情報は無責任に拡散せず「善意の加害者」にならないようにしなければならぬと強く感じました。今後とも下村先生とのリモート授業を継続し、様々な事を子ども達も教職員も学び、吸収していくつもりです。その様子はまた追ってお知らせしたいと思います。

### 「挑戦」と「賭け」(後編)

次に考えられるのは目標を下方向修正することです。これも、努力を重ねたうえでの変更と「何もしない」ままの変更では大きく異なります。

努力した人ならば、残念ながら現時点では目標は達成できないが次のステージで頑張るといふふうに「ゴールを先に設定する」という、将来に向けて頑張るきっかけとなる変更になります。

それに対して自分は「何もしない」で目標を下げた人はこれから先も永遠に下げ続けるでしょう。そしてその考え方は何かに「挑戦」することはできず、専らイチかバチかの「賭け」になってしまいがちです。

「挑戦」と「賭け」の違いは明らかです。成功の可能性を多く残し、失敗したとしても自分の中に財産が残るような取り組みが「挑戦」です。あとから思い返してもあれだけ頑張ったから次こそ！と自分に自信が持てるようになりま

たとしてもそれは「偶然」や「まぐれ」で同じことは続きません。自身は何も変わっていないで努力をほとんどしていないなら、一回は「賭け」で勝つても本当の自信はもてませんし、いつか必ず負けます。

これまで偉そうに書きましたが私自身も努力から逃げた時期もありました。そしてその時のことを思い返すと苦い思いがありますし、その頃の自分は好きではありません。それは頑張らずに逃げていた自分を一番分かっていてからです。

そんな思いを二度と味わいたくない、後悔はしたくないと、自分の人生で「挑戦」を続けるために目標を掲げて、出来る限りの努力を続けたいと思っています。

一度しかない人生で悔いを残さないように、「偶然」や「まぐれ」に頼らなくていいように、「才能・能力×努力の総量」のうちの「努力の総量」を増やしていきたいですね。

### 校長室より

この秋は出張が多く、文化学習発表会には残念ながら参加できませんでしたが。生徒の前でつくばに研修に行くことを話し、勉強を精一杯頑張ることを話したら、大きな拍手をもらい、胸が熱くなりました。一週間の研修中もおかげで頑張りましたし、当日は遠くにも成功を願っていました。生徒会が企画した「校長先生をさがせ」も盛り上がり、聞き、本当に嬉しく思いました。生徒達に心から感謝しています。